

買い物体験 ～地域の大型スーパーとの連携・交流～

1. 目的と経緯

- ・【対象園児：年長児】買い物体験をすることは、身近な生活に関わる社会の仕組みに触れる機会となる。品物を選び、お金を支払い、物を受け取るという一連の流れを経験することで、生活に必要な行動やルールへの理解を深める。また、何を買うのか考える。店の人や友だちとやりとりをする。順番を守る、約束を意識する。といった体験を通して、考える力・言葉で伝える力・社会性を育みます。さらに買い物を「楽しい経験」として味わうことで、身の回りの人や物への関心を高め、生活への主体的な関わりにつなげていくことを目的とする。

2. 内容

- ・きっかけは、年長児の「夕涼み会」に自分たちでカレーを作り食べたい。という意見が基となり、食材を自分たちで買い物に行こうと、みんなでカレー作りに必要な食材を話し合いその他に必要な食材、サラダ用の野菜、ドレッシング、飲み物、食後のアイスなど欲しい物を自分たちで考え、事前に「セルバ忍野店」へ買い出しに出かけました。その後もお散歩へ出かけながら、自分たちの食べたい「おやつ」の買い物を4回ほど体験し楽しみました。



3. 成果と課題

- ・実際の店舗での買い物体験を通して、子どもたちは園内での模擬体験（お店屋さんごっこ）では得られない現実的な緊張感や期待感をもって活動に参加していた。商品が並ぶ様子や店員とのやり取りを目の当たりにすることで、買い物が生活の中で行われている活動であることを実感する姿が見られた。欲しい物を自分たちで選び、代金を支払い、商品を受け取るという一連の流れを経験する中で、「これください」「おねがいします」「ありがとうございます」など、場に応じた言葉を使おうとする姿が多く見られ、コミュニケーション力の育ちが感じられた。また、公共の場であることを意識し、周囲に配慮しながら行動しようとする姿や友だちと順番を守りながら買い物をすすめようとする姿が見られ、社会性の育ちにつながった。
- ・今後は、実体験を通して得た学びを園でのごっこ遊びや日常生活につなげていくことで、より深い理解と定着を図っていきたいと思います。

